尾崎紅葉文学研究

張秀強/著

WEIQI HONGYE WENXUE YANJIU

人民出版社

尾崎紅葉文学研究

張秀強/著

WEIQI HONGYE WENXUE YANJIU

人民出版社

责任编辑:李椒元
装帧设计:肖　辉　欢　欢
责任校对:吕　飞

图书在版编目(CIP)数据

尾崎红叶文学研究/张秀强 著. -北京:人民出版社,2015.8
ISBN 978-7-01-014968-4

Ⅰ.①尾…　Ⅱ.①张…　Ⅲ.①日本文学-近代文学-文学研究
Ⅳ.①1313.094

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2015)第 140485 号

尾崎红叶文学研究
WEIQI HONGYE WENXUE YANJIU

张秀强　著

人民出版社 出版发行
(100706　北京市东城区隆福寺街 99 号)

北京市文林印务有限责任公司印刷　新华书店经销

2015 年 8 月第 1 版　2015 年 8 月北京第 1 次印刷
开本:880 毫米×1230 毫米 1/32　印张:11
字数:236 千字　印数:0,001-3,000 册

ISBN 978-7-01-014968-4　定价:26.00 元

邮购地址 100706　北京市东城区隆福寺街 99 号
人民东方图书销售中心　电话 (010)65250042　65289539

版权所有·侵权必究
凡购买本社图书,如有印制质量问题,我社负责调换。
服务电话:(010)65250042

序

文学とはなにか。テリー・イーグルトン(Terry Eagleton)の説よれば、文学はただ客観的な存在ではないという。「文学を構成している価値判断は歴史的変化を受けるもの」であり、そして、「こうした価値判断は社会的イデオロギーと密接に関係している」と説くイーグルトンは、文学、文学批評と社会歴史との関連性を強調する一方、文学作品がそれを読む人々と社会によって再創造されるものであるとも指摘している。そういうイーグルトンの理論と方法を受け入れて、張秀強博士は日本近代作家尾崎紅葉の研究を深く幅広く進めてきた。その研究成果は著書『尾崎紅葉文学研究』にまとめられている。

尾崎紅葉(1867~1903)は日本近代文壇において名の知られる作家である。東京大学で学び、文学の創作を始めた時から、尾崎紅葉は古典精神の尊重を提唱していた。同志と文学結社「硯友社」(1885)を結成し、回覧雑誌『我楽多文庫』を発刊した時の尾崎紅葉は、まだ大学予備門の学生であった。後世の学者は、尾崎紅葉の文学と幸田露伴の文学を明治文壇の「擬古典主義」と称し、また尾崎紅葉と幸田露伴の文学創作時期を「紅露時代」と称した。尾崎紅葉の小説『金色夜叉』は我が国で早くも翻訳出版され、前世紀末に大連テレビ局によってドラマ化もされている。

尾崎紅葉の主な文学作品には、『二人比丘尼色懺悔』(1889)、『伽羅枕』(1890)、『二人女房』(1891—1892)、『三人妻』(1892)、『心の闇』(1893)、『不言不語』(1895)、『多情多恨』(1896)、『金色夜叉』(1897—)などがある。『金色夜叉』は尾崎紅葉の病死により未完の作品となり、読者にとって極めて遺憾なこととなった。尾崎紅葉の多くの小説に、理に困ったり、情に苦しむ女性人物が描写される。また、その理と情は、情理以外の何物か——時には倫理、時には利益の牽制を受けている。しかし、尾崎紅葉から見れば、人間の情理を牽制する様々な利益こそが、明治社会の嘆かわしい世相の根本的な原因なのである。尾崎紅葉の小説は、美文が特徴であるが、一方ではモノローグなどの手法による女性心理の描出も尾崎紅葉の得意とするところである。しかし、尾崎紅葉の小説は、人物の描写に留まっておらず、登場人物の或いは不運、或いはエゴのストーリーを通して、時代が変化するとともに生じる価値観の変化を表現している。また、作家の得意とする心理描写を通して、価値観が多元化する時代を生きる様々な人物の内心的葛藤を描き出している。

尾崎紅葉は日本語の文体においても功績があった。彼は一部の小説において、「である調」の文体すなわち言文一致体を用いて創作した。同時代の作家たちは、それぞれ違った口語文体での創作を試み、文学創作における文体の産出も、当時の社会文化の発展にとって必要であった。尾崎紅葉の創作した小説の中で、言文一致体の小説はそれほど大きな比重を占めていないが、しかし、彼の言文一致体の小説創作は、小説創作の多様性に寄与しているのみならず、文体において明治文学の近代性を引き上

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

げ、同時に日本語の発展にも貢献を成し遂げたといえよう。

張秀強博士の著書『尾崎紅葉文学研究』は、近年得難い尾崎紅葉文学についての研究書であり、また研究の材料、研究の角度、研究の方法など多方面にわたって独創性を勝ち取った研究成果でもあり、一読の価値のある著書となっている。

まず材料の面においては、尾崎紅葉の早期小説『二人比丘尼色懺悔』について、これまでの研究は、本作を典型的な擬古典文学作品とし、井原西鶴の影響が多く見られると主張している。張秀強博士の研究は、日本古典文学のテクストの読み込みに基づき、小説『二人比丘尼色懺悔』が日本古典文学から受けた継承を、『万葉集』和歌、『伊勢物語』、『大和物語』の話及び『今昔物語集』の言葉遣いにまで遡ることが出来た。そして、尾崎紅葉の擬古典文学は、ひとりのある作家のある作品のある風格に対する模倣ではなく、民族伝統文学、伝統文化の土壌に深く根ざした創作だと主張している。尾崎紅葉の文学は、もし早期の創作過程における古典文学からの大量の摂取がなければ、後期作品の成功も考えられないものであったであろう。

張秀強博士の研究は、尾崎紅葉文学と中国文学との比較研究においても新しい発見と独創性を得た。詳細な資料考証を経て、尾崎紅葉という作家本人の持つ漢文学素養を客観的に描出し、同時に作家の文学創作において中国古典文学から素材を取っていることを指摘した。例えば、尾崎紅葉の晩年の短編小説『偽金』(1902)は、その素材は中国清代慵訥居士の筆記小説『咫聞録』第九巻の『嫁禍自害』となっている。また、小説『巴波川』(1890)について、先行研究では既に中国典籍の素材との関連性

が考証されており、本研究書においては、初めてこの小説と広東民間故事との関連性を提出し、細部に至る比較分析も試みている。この部分の論説が、読者に論証を閲読する時の楽しみをもたらすものであればと思っている。また、読者にこれまでと少し違った尾崎紅葉文学の印象をもたらすことを期待している。

小説『金色夜叉』の発表は1897年からであり、その後、断続的に連載したものとなっている。1897年の日本は、近代以来初めての武力による対外拡張を実現させ、帝国主義侵略の歩みを始めている。1894年の甲午戦争では、1895年に清国と日本は下関条約を締結し、清国政府は賠償金を支払うほか、日本は台湾において植民地総督府を設置するようになった。1897年、日本の貨幣法が公布され、金本位制が実現した。一方ではメディアの軍国主義、一方では一部の民衆の民族主義思想が膨張した。一方では銀行による新貨幣の発行、一方では物価の上昇があった。小説『金色夜叉』の「金」は貨幣という意味の金銭である。張秀強博士の『尾崎紅葉文学研究』は、文学研究の著書として、特に甲午戦争時期の日本社会および文人と戦争の問題に注目をし、本書の終わりの部分で明確な観点の論述をしている。

言うまでもなく、小説『金色夜叉』は作家が社会を観察し思考した産物である。作品に登場する主人公二人の青春の迷走は、その実質において、この時期すべての若い世代の精神的迷いを反映している。幼馴染の青年男女二人が出てくるが、ヒロインがもっと経済的実力のある求婚者を選択したため、男主人公は憤りを感じた末に、自棄になり高利貸の手代になり、金の亡者となった。表面的に見れば、これは最もありふれた愛情と金銭の

問題であるが、実質的には価値観における根本的な分岐がここに現れている。尾崎紅葉は素晴らしい作家であり、彼の小説に登場する人物の最大の痛苦は、内心の良知と新しい価値観に従った選択の相容れないところにある。それは詰まるところ、究極的には、読者は自分に問うことになる。これは『金色夜叉』が一般的な青年男女の愛情悲劇を描写する現代文学をはるかに超えたところであり、またいわゆる恋愛小説を超えている所以である。

張秀強博士は、一章の紙幅で、受容美学の研究方法を用いて、『金色夜叉』が発表されてからの、その国家と地域における翻訳、翻案、書き換え、改編などを含めた受容及び変容を考察した。考察の対象は小説、テレビドラマ、流行歌などと多様である。この部分の研究は、尾崎紅葉文学の研究にとっても非常に重要である。都市空間の物質化感覚、より貨幣に依存した生存、価値観の多元化による人と人と間の分岐、教育によって得た良知と利益選択との間に立ちはだかる矛盾、そして、社会共同体の倫理による拘束力の喪失などなど、これらの課題究明は、研究者にさらに深層のレベルにおいて『金色夜叉』の問題本質を突き止めるきっかけを提供し、その上でより正確に尾崎紅葉の文学を把握するための手助けとなろう。

張秀強博士は広く書籍を読み、勤勉家でもある。本研究書を出す前に、既に多年にわたる尾崎紅葉文学研究の蓄積があり、テクストの解読や基礎の研究の面において、しっかりした基礎が出来ていた。論文も多数発表しており、そのうち独特の見地を持つものも少なくない。教壇に立つ仕事をしながら、このよう

に特色のある研究書を出版することが出来たのは、多年の研究の蓄積があってのことだと思う。本書が読者に新しい視野と新しい啓発を提供することが出来ればと祈念して筆を擱く。

林　嵐

2015 年 4 月 10 日長春にて

目　次

序 …… 1

序　論 …… 1

一、問題意識 …… 1

二、先行研究 …… 4

三、研究意義 …… 26

第一章　尾崎紅葉文学と日本の古典文学 …… 30

第一節　擬古典主義文学としてのデビュー …… 38

第二節　『二人比丘尼色懺悔』に見られる古典文学からの継承 …… 47

第三節　『二人比丘尼色懺悔』の意義と近代性 …… 60

第二章　尾崎紅葉文学における中国文学の要素 …… 80

第一節　文人としての中国古典文学素養 …… 80

第二節　作品に織り込まれた中国古典文学の素材 …… 88

第三節　尾崎紅葉の中国種翻案小説『偽金』について …… 102

第四節　『巴波川』に見る中国伝奇小説の投影 …… 123

第三章　尾崎紅葉代表作『金色夜叉』再解読 …… 150

第一節　貫一の人物設定の意味 …… 157

第二節　立身出世思想と作中人物の心的苦悶 …… 184
第三節　赤樫満枝とお宮の役割 …… 199
第四章　コレクティブ・メモリーとしての『金色夜叉』 …… 213
第一節　翻案としての『金色夜叉』と原典としての『金色夜叉』 …… 213
第二節　中国大連テレビ局制作の『金色夜叉』について …… 226
第三節　台湾歌曲『金色夜叉』の誕生 …… 239
第四節　台湾テレビドラマ『金色夜叉』について …… 252
第五章　尾崎紅葉文学の周辺 …… 270
第一節　尾崎紅葉と中日甲午戦争——他の文学者と比較して …… 270
第二節　尾崎紅葉と二葉亭四迷——その文学史上の意義について …… 290
結　論 …… 307

参考文献 …… 313
謝　辞 …… 336
あとがき …… 339

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

目　录

序　言 …… 1

序　论 …… 1

一、问题意识 …… 1

二、先行研究 …… 4

三、研究意义 …… 26

第一章　尾崎红叶文学与日本古典文学 …… 30

第一节　作为拟古典文学的登场 …… 38

第二节　《二人比丘尼色忏悔》中古典文学的继承 …… 47

第三节　《二人比丘尼色忏悔》的意义与近代性 …… 60

第二章　尾崎红叶文学中的中国古典文学要素 …… 80

第一节　作为文人的中国古典文学素养 …… 80

第二节　编织进作品中的中国古典文学素材 …… 88

第三节　尾崎红叶的中国翻案小说《伪金》 …… 102

第四节　中国传奇小说在《巴波川》中的投影 …… 123

第三章　尾崎红叶代表作《金色夜叉》再解读 …… 150

第一节　贯一的人物设定的意义 …… 157

第二节　立身出世思想与作品人物的内心苦闷 …… 184

第三节　赤樫满枝与阿宫的人物形象 …… 199

第四章　作为集体记忆的《金色夜叉》 …… 213
第一节　作为翻案作品以及作为原典的《金色夜叉》…… 213
第二节　中国大连电视台的电视连续剧《金色夜叉》…… 226
第三节　台湾歌曲《金色夜叉》的诞生 …… 239
第四节　台湾电视连续剧《金色夜叉》…… 252
第五章　尾崎红叶文学的周边 …… 270
第一节　尾崎红叶与中日甲午战争 …… 270
第二节　尾崎红叶与二叶亭四迷 …… 290
结　论 …… 307

参考文献 …… 313
谢　辞 …… 336
后　记 …… 339

序　論

一、問題意識

尾崎紅葉(1867~1903)は日本近代文壇の有名な作家である。明治二十年代、西洋化への反動といった社会の国粋風潮を背景に、尾崎紅葉と同人たちは伝統的な古典を尊重する立場から文学結社硯友社(1885)を成立し、機関誌『我楽多文庫』を創刊した。尾崎紅葉の文学は、まず文体においては修辞や文章の技巧を凝らし、西鶴の写実風に学んで工夫した文体から、だんだん紅葉自身の文体を形成し、その後、言文一致へと発展した。また、作品の世界では、まず西鶴風の『二人比丘尼色懺悔』(1889)を発表し、その後『源氏物語』の影響を受けながら言文一致の『多情多恨』(1896)を創作し、その女性の心情と所為の描写にすぐれたところにより、世に注目され、好評もされた上に、擬古典主義作家という名も冠された。連載小説『金色夜叉』は一連の創作の頂点となり、幸田露伴とともに〈紅露時代〉と呼ばれるほど、一時代の名作家となった。

しかし、尾崎紅葉の没後百年を超えた今日では、かつて明治という一時代の人気を博した紅葉の小説はまたどれほど読まれているであろうか。紅葉の文学は文学史の研究においてどのように位置づけられているであろうか。紅葉の筆による作品の文体であれ、人物であれ、時代の推移に伴い読者の親近感が薄くなっ

ていく中、その評価もプラスの言葉ばかりではないように変わっている。例えば、「小説興隆の黎明期を支えた存在とされながら、その小説が読む、そして鑑賞するという対象から長い間阻害されてきた」①という作品―読者の関係評、文学史における「紅葉の位置はいかにも中途半端で居心地が悪い」②という感情的な発言、さらに、「紅葉や硯友社たちが示した若々しいエネルギーとその結実を、老成した文学史はまだ十分に位置づけ得ていない」③という指摘などは尾崎紅葉文学の受容現状および研究の現状の一斑を窺わせるものであろう。

確かに「降る雪や　明治は　遠くなりにけり」(1931.中村草田男)という俳句表現に現れたように、1931年の詩人中村草田男から見ても、明治時代はすでに遠い時代になっている。尾崎紅葉文学についての研究現状も、岩波書店による『新日本古典文学大系明治編』の叢書出版に象徴されるように、近代文学として位置づけらる明治の文学でありながら、最近では古典として扱われつつあるという読書界の現状とも関係があろう。日本の大学の「国文科の卒業論文における、いささか比重をなくした近代(現代)への傾斜は早くいわれてきたことだが、この傾向は最近いっそう顕著になりつつある」④

---

① 馬場美佳:『小説家の登場――尾崎紅葉の明治二年代』、東京:笠間書院,2011年、10頁。

② 小平麻衣子:『尾崎紅葉――〈女物語〉を読み直す』、東京:日本放送出版協会,1998年、11頁。

③ 須田千里、松村友視校注:『新日本古典文学大系明治編　尾崎紅葉集』、東京:講談社,2003年、499頁。

④ 紅野敏郎、竹盛天雄等:『解釈と鑑賞別冊　現在文学講座　明治の文学』、東京:至文堂,1975年、1頁。

という一文は『明治の文学』の編集を務めた紅野敏郎が「はしがき」でもらした感想である。今から凡そ四十年も前の傾向であるから、二十一世紀に入った現在ではこの傾向はさらに顕著になっているのではなかろうか。そうして、今「降る雪や　紅葉　遠くなりにけり」という寂しい研究の現状が形成されてきたのである。

大学時代の卒業論文に『金色夜叉』におけるお宮の人間像の分析を試み、それが契機となって、以来尾崎紅葉の一風変わった擬古文の文体を相手に、作品の解読に取り組んできた。大学院の時も尾崎紅葉の集大成作『金色夜叉』を修士論文の課題にし、男性主人公間貫一の人間像を明治の立身出世思想の背景に即しながら考察し、尾崎紅葉の人物設定の意義を探求した。明治の文壇を一時支配した尾崎紅葉に対する認識の深化に伴って、また尾崎紅葉と同時代の評論家の痛烈な尾崎紅葉批判に触れ、突き詰めれば「無思想」の一語に押印された尾崎紅葉文学に対し、いくつか疑問が生じてきた。それは率直に言うならば、まず一世一代の読者の人気をものにした尾崎紅葉の擬古典主義文学は、果たして何によって、あれほどの歓迎を受けたのかと探求したくなったのである。

要するに、紅葉の文学には尾崎紅葉ならではの文学修行があるに違いない。また、その修行において文学的栄養の吸収、消化、内省、そして超越といった過程もあったと思われる。そして、この疑問は、大きく言えば擬古典主義文学と言われる尾崎紅葉文学と古典文学との関連性という課題にもつながる。しかし一口に古典文学と言う場合、日本の古典文学との関連性が集中

して強調される研究の現状の中、全般的に漢文素読能力の高い明治時代の文学者の一員として、尾崎紅葉は中国の古典文学から吸収したものはないかという副課題も付き纏ってくる。これらの問題究明は、言うまでもなく、今までほとんど日本語という言語媒介にのみ頼っている尾崎紅葉文学の文学享受と文学研究の視界領域を拡大する意義を持つものとなろう。

本研究は、上記のような問題意識を踏まえて、尾崎紅葉文学に存在するさまざまな外的要素と内的要素の関連性を明らかにする中国人研究者の立場での一つの試みである。日本人の研究者によって今まで問題視されることの少ない、もしくは取り上げることのなかった課題へのアプローチによって、尾崎紅葉研究に取り組む際に外側からの視点を提供できることと考えられよう。

二、先行研究

尾崎紅葉についての先行研究を、戦前の評論および戦後の批評というように概観してみよう。戦前の文学評論の場合、イデオロギーの単一化と娯楽文学に対する抑圧という時代背景の中で、尾崎紅葉文学の擬古典文学の性格と作家尾崎紅葉が言文一致にもたらした貢献が文学評論の中心となっていた。それに対して、尾崎紅葉文学の芸術性はあまり高く認められていなかった。戦後、尾崎紅葉文学についての批評は多様化の様相を呈し、作家自身についての人生考察や、作品論、文体論、読者論、メディアとの関係など多角度からの解読が可能となった。しかし、尾崎紅葉の文学思想と中国文学との関係についてはあまり言及されることはなかった。また、1945 年を境として、戦前の研究文

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com